香川大学教育学部附属坂出小学校　道徳だより　　2021/1/29　№5

どうとくのひろば

今回の「どうとくのひろば」では，４年生の道徳の授業の様子をお届けします。【勤労，公共の精神】の道徳的価値について，考えを深めていきました。今回の教材は，『神戸のふっこうは，ぼくらの手で』です。

１月 17 日は，阪神淡路大震災があった日です。授業冒頭でこの震災について聞いてみると，子供たちの中には大きな地震であったこと，たくさんの被害があったこと等を知っている子もいました。

教材文のあらすじは，地震にあった避難先で，「ぼく」は，先生や女の子がみんなのために働く姿を見て，自分もみんなのために役立つことをしなくてはならないという思いを抱き，実行するというお話です。子供たちは，はじめは何もできず，先生を頼っていた主人公が，避難所のために行動する様子を見て，どのような気持ちがあったのか，自分だったらどうかを考えていきました。

【授業の板書】

子供たちは，主人公「ぼく」の立場に立って，気持ちを考えていきました。まず，先生の行動を見たときには，「先生は，みんなのために行動できていてすごい」「自分だったら絶対できない」「とってもありがたい」などと，教材文の中に登場する先生の行動のすばらしさに感心する子供たちが多くいました。一部には，「申し訳ない」「自分もやらなければ」という子供たちもいました。道徳的価値を理解している様子が見えます。

次に，１年生の女の子の行動を見たときには，その行動のすばらしさに感心しながらも，「自分たちにも何かできないだろうか」と考える子供が多くなりました。先生の行動を見たときには，どこか他人事だった子供たちも，道徳的価値の理解を深めることができました。

最後には，主人公「ぼく」がみんなのために行動できたことを確認し，自分の生活とつなげて考え，「自分も主人公のように行動していきたい」「見ている自分からやる自分に変わっていきたい」と自分の生き方について考えを深めていきました。

振り返り返りノートの記述

- 私ならきっと「やだ，やりたくない」と言って人に任せっぱなしにするけれど，「ぼく」は自分にできることは･･･と自分から行動していて，あんなふうに私もできるかも，と思った。
- ぼくも，「先生」や「一年生の女の子」みたいにみんなのためになることをしたり，みんなの役に立てるようにしたい。

切　り　取　り

道徳だよりへのご質問・ご感想　　（　　）年　（　　）組　児童名（　　）